



おとひめ

令和7年7月18日(金)



子どもたちから学ぶことがあります

山口小学校長 吉村 康介

先日の「山口にっこにこフェスティバル」には、たくさんの保護者の皆様、そして地域の皆様にご参加いただき、心より感謝申し上げます。子どもたちの挑戦を温かく見守り、応援して下さったことが、何よりの力となりました。今回のフェスティバルは、子どもたちが自ら企画し、準備し、運営までを担った、まさに「子どもたちの手で創り上げたお祭り」でした。どの子ども、目を輝かせながら話し合い、工夫し、時には悩みながらも、仲間と力を合わせて一步一步前に進んできました。本番を迎えるまでは心配もありましたが、当日はどの子ども堂々と自分の役割を果たし、地域の方々の笑顔に包まれながら、自信に満ちた表情を見せていました。その姿に、私は胸が熱くなりました。

私たち大人は、つい「失敗させないように」と先回りしてしまいがちです。苦勞をさせたくない、×でも△でもなく○にさせたいと、さまざまな障壁を取り除き、時にはほんの小さな小石までも除去しようとしてしまうことがあります。しかし、子どもたちは、うまくいかないことに出会いながらも、自分たちの努力で乗り越えていく力をもっています。今回のフェスティバルでは、そんな力強さをまざまざと見せてくれました。「やらせてみること」「信じて見守ること」の大切さを、子どもたち自身が教えてくれたように思います。

子どもたちの挑戦と成長を、これからも保護者の皆様、地域の皆様と共に喜び合える学校でありたいと、改めて感じた夏の日でした。



日常の子どもたちの姿勢に学ぶ

毎朝、登校時に「校長先生、おはようございます。」「〇〇先生、おはようございます。」と、名前を添えて挨拶してくれる6年生の女子児童がいます。誰に向けて言っているのかをはっきり伝えるその挨拶には、相手を尊重する気持ちが込められており、聞いている側も自然と笑顔になります。名前を呼ぶという行為には、相手の存在を大切に思っているというメッセージが込められており、人との信頼関係を築く第一歩です。

また、別の話になりますが、私が集会室で机の片付けをしていたところ、6年生の女子児童が「手伝いましょうか。」と声をかけてくれました。安全面を考えて実際には手伝ってもらいませんでしたが、そのひと言がとても嬉しく、今も心に残っています。私の様子を見て、自分にできることはないかと考え、勇気を出して声をかけてくれたその姿勢には、思いやりと優しさ、そして人を気遣う力がしっかりと育っていることを感じました。

このように、山口小の子どもたちの行動には、周囲をよく見て、相手の気持ちを思いやる力が表れています。そして、日常のこうした姿から、私自身が気づきや学びを得ることも少なくありません。山口小の温かな校風は、子どもたち一人ひとりの日々の行動の積み重ねによって育まれているのだと、改めて感じています。